

新店舗の資金調達を経営改善計画で実現

〈講演会、出版などで疾病、障害、高齢者などハンディのある方の社会進出を応援します〉——。出版や講演会のプロデュースを手がけるMプランニングのホームページには、こう記されている。

雑誌記者として障害者や難病者などを数多く取材してきた藤本美郷・代表が会社を立ち上げたのは2011年。ハンディキャップをもった人たちのなかには、「自分の体験を伝えることでみんなに勇気と元気を与えたい」と考える人もいる。そうした人たちの「受け皿」を作りたいとの思いが、起業に駆り立てた。

同社がこれまでに手がけた書籍には、たとえば『笑顔の架け橋』佐野有美・手足のない体に生まれて（俊成出版社）がある。先天性四肢欠損症で生まれたにもかかわらず、持ち前の明るさで前向きに生きる佐野有美さんの姿を描いたノンフィクションだ。佐野さんは講演活動にも積極的で、中学校や行政関係のイベントなどに

数多く出向いている。Mプランニングはそんな彼女の「所属事務所」であり、テレビ出演なども含めてさまざまな企画をプロデュースしている。

出店資金に黄色信号が

佐野さん以外にも複数の講演者を抱えている同社の経営上の悩みは、毎期の業績がなかなか安定しないことだった。講演や出版の企画をある一定数こなしたときは



細江取締役と温井税理士（左）

黒字となるが、そうでないときは赤字となる。受注ありきの商売で、その期にもうけを出せるかどうかは完全に「水物」だった。もっと安定した経営をしたい——。新規事業をはじめようと考えた出発点は、まさにそこだった。具体的には、手作りアクセサリーの販売店をはじめめることを計画した。

「最近、趣味でハンドメイドのアクセサリーや雑貨を作る人が増えていて、なかには自分が制作したものを誰かに買ってもらいたいという人もいます。でも個人でお店を出すのは難しい。そんな人たちが気軽に委託販売を頼めるお店を作りたいと思いました」と細江志佳・取締役は話す。同社の経営理念は「人を活かす」。この新規事業にも手作りアーティスト（作家）を「活かしたい」という気持ちが入り込められている。

よい物件を探し歩くなかで今年の夏、ようやく見つけたのが東麻布（東京都港区）の空き店舗だった。ところが間もなくして、その

期は赤字で決算を迎えることが確定。出店のための資金を自前で捻出することが難しくなった。

「その前が2期連続で黒字だったため、同じくらいの利益が出せるのではないかと見込んでいました。が少し考えが甘かったようです。とにかく昨年は不運続き。講演依頼がなぜか同じ日に重なってしまったり、土砂災害の影響でイベント自体が中止になったりと、機会損失（チャンスロス）がたびたびあったのです」（細江取締役）

会社の収益は大幅にダウン。業績がなかなか安定しないという同社の傾向が、嫌なタイミングで出てしまった。

計画通りに店をオープンするためには、そのための資金をどこから調達してこなければならぬ。そこで細江取締役は、補助金や助成金などの公的支援制度で自社が利用できるものはないかと探し回った。

そのときにたまたま見つけたのが、「経営改善計画策定支援事業」

だった。この制度は、税理士などの「認定支援機関」に経営改善計画作りなどを支援してもらうことで、新規融資やリスキなどの「金融支援」を受けられるというもの。幸い、税務顧問の温井徳子税理士も認定支援機関として登録していた。この制度を利用して根本的に経営改善を図り、金融支援を受けようと、すぐに温井税理士と検討した。

新規融資の獲得に成功

温井税理士は同事業を通じて、すでに複数の会社の経営改善をサポートしていた。そのため申請書の作成などはお手の物。あとはハンコを押してもらうだけの状態

にまで仕上げた申請書をカバンに入れて、細江取締役と二人でメーバンクの地銀に足を運んだ。

「その後、経営改善計画策定支援事業の申請は通ったものの、融資についてはすぐには認めてもらえませんでした。それなら別の金融機関を当たろうということで、日本政策金融公庫に連絡を取りました」（温井税理士）

結果的にこれが「吉」と出た。申し込んでから1週間もしないうちに融資が降りた。

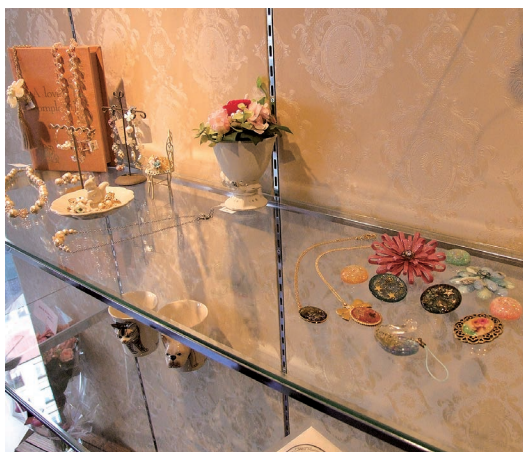
実はその2週間ほど前、温井税理士はTKC東京中央会若手税理士の金融交流会に参加し、日本政策金融公庫の担当者と良好な関係を築いていた。だから今回の件

で最初に電話をしたときも、「この前の交流会で話していたような金融支援をお願いします」の一言で意思の疎通ができたのだ。

もちろん温井税理士がいくら尽力したところで、Mプランニングに経営改善を実現できる可能性がないと見なされたら融資は降りなかったはず。このあたりの説明についてはどうしたのだろうか。

「新事業から得られる収益がそのまま上乗せされるので、すぐに黒字に転換できる。このことを温井先生に作ってもらった経営改善計画をもとに説明しました」（細江取締役）

また、「新規事業によって経営の安定化を図りたいという経営者



おしゃれな手作りアクセサリーが並ぶ「麻布Amy」



佐野有美さんの講演や書籍をプロデュースする

の意欲が明確だったことも、好印象につながったのだでしょう」と温井税理士は振り返る。

ともあれ十分な資金を獲得できたことにより、新店オープンの準備は着々と進んでいった。

東麻布で店舗をオープン

そして今年10月17日、「麻布Amy（エイミィ）」と名付けた店舗が無事にオープンを迎えた。店があるのは、地下鉄・麻布十番駅から歩いて5分ほどの閑静な住宅街の一画。店内には、ハンドメイドのUVレジン、デコパージュ、ビーズアクセサリーのほか、布製バックや各種雑貨・小物が並ぶ。

「手作り品の製作を得意とするアーティストがハンドメイド教室を開けるスペースも用意しています。『教室を開催したいけど場所がない』という方は、気軽に相談ください。個展を開くためのギャラリーとしても利用可能です」（藤本代表）

今後はホームページやSNSをうまく活用して、ハンドメイド作品の委託販売を広く募集していきたいという。